



News Letter



2025 年度報告会

内閣府戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期「海洋安全保障プラットフォームの構築」(SIP海洋課題)は、2025年12月4日(木)、イイノホールにて2025年度報告会を開催しました。当日は、会場参加者とオンライン視聴者合わせて600名を越える方々のご参加をいただきました。

2023年度のスタート以来、今年度で3年目を迎え、「海洋開発への挑戦と社会実装への加速化」とのテーマのもと、プロジェクトの成果と進捗及び今後の計画ならびに社会実装に向けた取り組み実績を報告しました。また、2026年1月の南鳥島EEZ(排他的経済水域)6000m海域でのレアアース泥採鉱機器の接続試験を目前に控え、試験航海に参加する現場関係者をメンバーとしたパネルディスカッションを行いました。



当日は、小野田紀美内閣府特命担当大臣(科学技術政策担当)、青山繁晴環境副大臣、元厚生労働大臣 武見敬三様、元総務大臣 衆議院議員 新藤義孝様及び経団連海洋開発推進委員会委員長 満岡次郎様をお迎えして、ご挨拶とご祝辞をいただきました。また、当日は公務ご多忙のためお越しにはなれず、内閣府総合海洋政策推進事務局 舟本浩事務局長の代読で赤間二郎内閣府特命担当大臣(海洋政策担当)からもご祝辞をいただきました。また、内閣府総合科学技術・イノベーション会議(CSTI)から、鈴木純 有識者議員からご挨拶を頂きました。

小野田大臣はじめ来賓の皆様からは、国家として海洋権益を守ることの喫緊性と重要性から高市政権の掲げる成長戦略とSIP海洋課題の取組みの親和性の高さの観点より、2026年1月の南鳥島EEZ 6000m海域での採鉱機器接続試験への大きな期待とこれまでのSIP海洋課題の研究開発の成果の社会実装に向けた取り組み、海洋産業界の更なる活性化に向けた貢献に対する期待が寄せられました。

第1部では、石井プログラムディレクターから、今年度のプロジェクト全体の成果と進捗及び今後の計画に関する報告とともに、日本成長戦略本部の掲げる17戦略分野の一つに「海洋」が位置付けられ、国として自律型無人探査機（AUV）の社会実装に向けた実証及び南鳥島周辺海域でのレアアース生産の開発実証等を加速する旨、説明がありました。その後、「レアアース採鉱試験及び採鉱実証」、「海洋環境影響評価システム開発」、「海洋ロボティクス調査技術開発」ならびに「海洋玄武岩 CCS 基礎調査研究」の4つのテーマについて各テーマリーダーから今年度の進捗報告がありました。

第2部では、社会実装の加速化ということで、「AUV協調群制御技術及び小型安価 AUV 開発」としての開発技術実証、運用技術実証として「AUV と江戸っ子による環境モニタリング」及び社会実装を加速させるためのユースケースとして「地方自治体との連携～富山湾調査」が報告されました。取り分け、小型安価 AUV は安価な価格、簡便な取扱い及び高い機動性により普及が期待され、また、富山湾調査は、令和6年能登半島地震による富山湾海域への影響、特に漁業への影響についてAUV「ほばりん」と「江戸っ子1号」を使った新たな海洋の見える化に挑んだ海洋モニタリングとして、他地域への展開が期待されます。



第3部は、「世界初の 6000 mでの機器接続試験に向けて」と題したパネルディスカッションを行いました。パネラーには、試験航海に用いる地球深部探査船「ちきゅう」の前川琢巳船長、「ちきゅう」を運航管理する日本マントル・クエスト株式会社の石黒裕康社長及び海洋研究開発機構の中井斉之研究プラットフォーム運用部門長をお迎えし、テーマ1リーダー川村善久をモデレータとして開催されました。参加者からは、経験したことのない深さの深海から初めてレアアース泥を採鉱するという前人未到のオペレーションに対する心配や課題が率直に語られた一方、多くの方々の期待を背負い、国にとても大きな意味を持つ重要なプロジェクトに参画することへの決意と意気込みが話されました。

報告会終了後には意見交換会が開催され、臨時国会の会期中ではありましたが、内閣府特命担当大臣 黄川田仁志様、環境副大臣 青山繁晴様、内閣府大臣政務官若山慎司様、参議院議員 横山信一様、衆議院議員 松原仁様、参議院議員 山田吉彦様にお出でいただき、ご挨拶をいただきました。意見交換会には会場一杯となる210名を越える方々にご参加いただき、盛会の内に終了しました。



戦略的イノベーション創造プログラム
Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program

海洋安全保障プラットフォームの構築 News Letter

制作・発行:SIP第3期「海洋安全保障プラットフォームの構築」

